



STOP! 介護崩壊 介護ウェーブ2010推進ニュース

—介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう！—

方針「今後の介護ウェーブの取り組みについて」を具体化し介護改善要求の声を国会に届けよう！

全職員の学習を追求し、介護改善要求を地域住民・事業所にも届けよう！

11月11日「介護の日」は全国一斉行動で介護ウェーブの“Big Wave”をおこそう

介護保険法施行10年の見直しに向けて、「社会保障審議会介護保険部会（厚労省）」での審議が大詰めを迎える、制度の拡充を求める意見と、利用者などに負担を求める意見、財源の枠内での選択と集中を求める意見に分かれている中で、厚労省は、「11月までに取りまとめる方針の変更はしていない」と改めて強調し、11月中には介護保険法改正の基本骨格が取りまとめられる予定です。今後、改正法案は、2011年1月の通常国会に上程、可決・成立を経て、2012年4月からの施行が予定されており、当面、通常国会に法案が提出されるまでの取り組みが重要になってきます。

このような動きの中で、介護保険制度の抜本改善を実現させるために、各県連、法人・事業所では、「介護保険の見直しをめぐる情勢と今後の介護ウェーブ方針」（全日本民医連介護・福祉部 2010年8月）を具体化し取り組みを拡げていくことが重要です。

11月11日「介護の日」の取り組みとして、全国各地で「宣伝・署名行動」等が計画されています。全日本民医連では、11月10日（水）～11日（木）に、「2010年度介護・福祉責任者会議」を開催し、「地域包括ケア構想」や介護ウェーブの取り組みについて議論し、200名を超える全国の法人幹部が今後の取り組みの意志統一をはかります。会議終了後の11日（木）12時45分からJR錦糸町駅で、全日本民医連、東京民医連、介護をよくする東京の会、21・老福連が共同し、「介護の日」宣伝・署名行動を行います。11月11日「介護の日」を結節点と位置づけ、全国各地で介護ウェーブの“Big Wave”をおこしていきましょう！

特養待機者家族会が金沢市に対して、特養などの施設整備に関する要望書を提出 第5期介護保健事業計画を前倒しして特養を建設していく旨の回答がありました（石川）

2010年10月4日、「特養待機者家族会」が金沢市に対して、特養などの施設整備に関する要望書を提出しました。その際に、第5期介護保健事業（支援）計画を前倒しして特養を建設していく旨の回答がありました。その後、10月13日に、特養建設希望者の説明会が急遽開催されました。説明では、第5期介護保険事業（支援）計画を前倒しして、19ヶ所ある生活圏域のうち小規模特養が空白の圏域に建設していくこと、今回は、空白圏域11ヶ所のうち2ヶ所で58床整備し、補助金は1床あたり350万円、施設基準も改定した1部屋10m²以上にするといった内容でした。

金沢市内の介護保険3施設は、2005年3,900床をピークに、2010年には3,400床（500床減）となっています。特養は微増（小規模特養をコツコツ建てているので）、老健は横ばい、介護療養は半減、特養待機者は4年間で500人増となり1500人を超えていた状況です。待機者家族会の地道な取り組みが、今回の特養建設の回答につながったといえます。同時に、10月7日に告示された、建設抑制をしていた「参酌標準」の撤廃や地域包括ケア構想などで、建設に踏み切ったともいえます。なお、今回の募集は自民党・公明党政権下に決められた、2009年度補正予算の「緊急経済対策」を活用するもので、応募締め切りは12月末です。その後、2011年2月中に審査が決定し、3月議会で予算が決まる予定です。2011年度に着工し年度内に開設するといった超スピード対応になっています。

（2010年10月28日 社会福祉法人やすらぎ福祉会 酒井専務より）

介護改善署名で地域訪問 友の会・なんぶやすらぎの会の会員とともに(石川)

2010年10月26日、27日、29日に、介護改善署名の協力の訴えに地域訪問を実施しました。特養なんぶやすらぎホーム開設以来、初めての地域訪問です。今回は、南健康友の会・なんぶやすらぎの会の会員と、職員のペアで訪問しました。3日間で11組51件を訪問し25人と対話できました。訪問先は、特養なんぶやすらぎホームの待機者の方です。「認知症が進んで、一人暮らしで大変。G P Sをつけていますが、母の家に行って顔を見るまで心配でたまらない」「自分も(介護者)病気がありこれ以上の介護は無理」「亡くなりました」と、待機中の切実な声が聞かれました。一方で、「どうしてもなんぶに入りたかったが、待ちきれずに病院に入った」「別の特養に入所しました」「療養型に入りました」と、在宅ではどうにもならず別の施設に入所した方も複数いました。訪問した職員は、「署名をお願いするのは大変だが訪問して現実を知ることは大切」「玄関に喪中の紙が貼ってあり待機中に亡くなったのではと深刻さを感じた」「ホームの入居を心まちにしておられることが伝わってきた」「機会があればまた行きたい」といった感想が出されました。また、友の会・なんぶやすらぎの会の方といっしょに訪問ができ、「地域の方と一緒に訪問して、いつもなんぶやすらぎホームに関わってもらっている人の顔と名前が一致し、なんぶやすらぎホームへの想いを感じられ嬉しかった」、地域の方は、「職員の積極的な取り組みに楽しく行動に参加することができた」「職員といっしょに訪問すると安心」、その他、「他の所に入所できたときで安心した」「不在の家の人はどうしているか心配」など、暖かい感想も出されました。夕方の訪問で、「ディから帰ってくるから」「夕食の準備で忙しい」と署名を置いて帰ってきた家もありましたが、訪問の翌日から署名が返送され、12件の方から送られてきました。直接署名をいただいた方・返送された方を合わせると、対話したほとんどの方から協力を頂き、57筆の署名が集まりました。初めての地域訪問でしたが、待機者の実態を垣間見ることができ、いつもなんぶやすらぎホームを支えてくださる方の想いにも触れることができた訪問になりました。

(2010年11月5日 特養なんぶやすらぎホーム 坂口明美施設長より)

安心して住み続けられる「地域包括ケア」を私たちの手で 東京民医連介護ウェーブ学習・決起集会を開催 10月28日(東京)



全日本民医連の山田智副会長(立川相互病院副院長)を講師にむかえ、「東京民医連2010介護ウェーブ・学習決起集会」を大塚・ラパスホールで開催しました。台風の影響による大雨にもかかわらず61人が参加しました。山田副会長は「地域包括ケア・介護をめぐる情勢」というテーマの学習講演で、経済的理由で利用できないなど「介護の社会化」とは名ばかりの介護保険の問題点を指摘。介護ウェーブの運動や民医連のまちづくりのとりくみを通して、誰もが安心して住み続けられる「地域包括ケア」を私たちの手でつくろうと呼びかけました。その後、東京民医連介護・福祉部の及川理事より、「東京民医連『介護ウェーブ当面の方針』」が提案され、とりくみの交流を行ないました。

友の会と協力して宣伝・署名行動 地域福祉サービス協会・コスモス国立

10月12日、三多摩健康友の会国立支部と地域福祉サービス協会・コスモス国立の共同で街頭署名行動を行ないました。午後3時から4時までの1時間で60筆の署名が集まりました。友の会は後期高齢者医療制度の撤回署名、コスモス国立は介護署名を中心に行ない、職員はサービス提供責任者4人と若い事務1人の5人が参加しました。両方の署名をとりながら介護署名の訴えを行いました。街行く人々が足を止めて聞いていました。予防給付が無くなること、ヘルパーの賃金が生活できない状況であること、利用しにくい介護保険の状況であること等を話して署名をしてもらいました。行動を始める前に訴えのポイントについて学習することや、配布する宣伝ビラが欲しい等の前向きな意見が出ています。次回は事業所近くのJR谷保駅で行なう予定です。(東京民医連介護ウェーブニュースNo.48 2010年11月3日より)



お問い合わせは、「介護ウェーブ推進本部」事務局：山平・名波まで

TEL 03-5842-6451 / FAX 03-5842-6460 / E-mail min-kaigo@min-iren.gr.jp